

## 中外雑記

### 神社界

#### 京都三社寺に震災助成

●昨年の兵庫県南部地震は京都府の社寺にも被害を及ぼしたが、このたび京都府の教育委員会は、府が指定する登録文化財への地震対策費として、舞鶴市の真言宗醍醐派・松尾寺の他、亀岡市の■田野神社（桂倉之助宮司）、与謝郡加悦町の天満神社の二社への助成を決定した。同事業は昨年の兵庫県南部地震を機に創設されたもので、三社寺にあわせて一千万円が助成される。古式ゆかしい丹波地方の民俗芸能・とうろう祭を保存していることで知られる■田野神社は、地震で境内の石灯籠が倒れ、助成金は灯籠の修復費用に充てられることになっている。石灯籠は台石を水平に設置し直し、ぐらつかないように板などを間に敷いて安定させる。また、天満神社への助成金は石灯籠の補修に充てられ、松尾寺へは耐震設計の貯水槽を三、四年かけて境内に設置することに充当される。府教委は昨年六月、近畿地方で初めて地震対策の補助金を出すことを決定し、対象となる社寺を探していた。

#### 五月に拝殿竣工

●一月十七日は、震災の一周年を迎え、生田神社（加藤隆久宮司、神戸市中央区）には神戸の安泰を願う参拝者が多く訪れ、境内は普段より賑わいをみせた。昨年十二月十七日には、神戸七福神と呼ばれる七社寺が合同して、被災地の復興を祈る「災復興厄除祈願大祭」が初めて実施されるなど、生田神社の再建に復興のイメージを重ねる神戸市民は多い。七社寺合同の祈願大祭は、須磨寺（小池義人管長、神戸市須磨区）、大龍寺（井上仁性住職、神戸市中央区）、天上寺（伊藤浄嚴貫主、神戸市灘区）、念仏寺（永岡大純住職、神戸市北区）の四カ寺に加え、長田神社（津田信基宮司、神戸市長田区）、湊川神社（吉田智朗宮司、神戸市中央区）、生田神社の三社が参加して行なわれた。生田神社の境内に特設された祭壇と護摩壇を前に、神仏両方の次第で厳かな祭典が行なわれた。神職は大祓厄除祈願祭を斎行し、僧侶が護摩焚法要を営むと、集まった人々は興味深げに見入り、また祭典と共に多くの人が手を合わせていた。今年五月には拝殿が竣工し、復興のシンボルが復活する。

### 天台

#### 兵庫大仏で震災一周忌

●天台宗 十六日、兵庫教区の兵庫大仏で有名な能福寺（雲井世雄住職、神戸市兵庫区北逆瀬川町一ノ三九）で、兵庫教区災害対策本部、天台宗務庁、総本山比叡山延暦寺の主催により、兵庫県南部地震の犠牲者一周忌法要が勤められた。梅山圓了天台座主を導師に迎え、杉谷義純宗務総長を初めとする宗務庁から、小林隆彰延暦寺執行を初めとする総本山からの出仕と、上中善信兵庫教区宗務所長を初めとする教区代表の式衆により営まれた。僧俗三百人が参列し、犠牲者の冥福を祈るとともに、一日も早い復興を念じた。この日は、曇り空だったが、境内の紅梅も咲き始めて、暖かい日であった。そびえ立つ大仏宝前に式衆が荘厳して並び、読経の音が神戸の空に響いた。小林執行が挨拶の中で、「法要中、亡くなった皆様が読経に寄られて、並んで手を合わせておられるような気がしまし

た」と語った一言に、参拝の遺族の中に目頭を押さえる姿も見られた。また、同寺境内では兵庫教区仏青や仏婦らが中心となってボランティアによる「ぜんざい」三百食の炊き出しも行なわれた。お餅を焼いたり = 写真【写真は省略】、ぜんざいをつくったりと、おおわらわであった

▽法要は、しめやかなうちに荘厳に勤められたが、境内には、大破した本堂に未だにシートがかかったままであったり、その側には台座から転がり落ちた一メートル余の石仏がそのままであったりと、当時の被害の甚大さを表わしていた。能福寺はこのように震災を受けながらも、救援活動の拠点として、有志僧侶やボランティア団体による炊き出し、物資の引き渡しなどが行なわれるなど、震災当時から活動を続けており、地域でも重要な役割を果たしてきた。現在の兵庫大仏は、戦時中に供出された旧大仏に変わって、平成三年五月に再建立されたばかりのもの。身丈が十一メートル、台座を含めた総高は十八メートル、重さ六十トン。建立の時に、大きな建築物のために、神戸市からの厳しい検査基準を受けることになり、震度8に耐える建築をしなければならず、検査基準に達するために、予算を億単位で増やすなど苦勞して、建立したものである。戦前の兵庫大仏は、悟りを開いた直後の痩せた姿の釈迦像であったが、建築の安定などの点から、今回はふっくらとした平成の釈迦像につくり変えられている。建築時の厳重な基礎工事が幸いして、こうした大震災にもビクともしなかった結果となったようだ。

---

## 真宗

### 生き残った者の務めを

●**本願寺派** 兵庫県南部地震の一周年に当たる十七日には、阪神・淡路地区の本派寺院の多数で、この震災で犠牲となった門信徒、僧侶、寺族らの一周忌法要が厳修され、参列者らは犠牲者に哀悼の誠を捧げるとともに復興への誓いを新たにす

▽兵庫県西宮市の豊原大成総務の自坊、西福寺では、午後三時から、震災の犠牲となった大潤元総長、幸子坊守、長女の真利さんの一周忌法要、そして、峰子前坊守の三回忌法要が営まれ、約三百人の門信徒や僧侶らが参列した▽同寺は、庫裡や書院など本堂を除く殆どの建物が倒壊し、大潤元総長らはその瓦礫の下敷きとなって絶命した。震災後、庫裡を新築、斜めに傾いていた山門も修復されており、壁が剥がれるなど内部の傷みが目立った本堂もほぼ修復を終えた

▽法要は、日野照正本照寺住職の導師により阿弥陀経作法で営まれ、施主の豊原総務をはじめ、梶山雄一京都大学名誉教授、蓮清典帯広別院輪番、米重治教学助成財団部長など参列者が次々と焼香に立ち、故人に哀悼の誠を捧げた

▽法要後、挨拶に立った豊原総務は寺院の復興を支援した門信徒らに対して「言葉には尽くせないほどのお世話になり本当に有り難うございました」と謝意を表明 = 写真【写真は省略】。また、「あの震災の中で生き残ったということ。これは本当に大切なことだと思いますし、私はそのことを胸にこの一年間を一生懸命に生きてきました。そして、そのことを私だけのこととするのではなく一人でも多くの人達に伝えていくことがもっと大切なこととあります。今後より一層念仏弘通に精進したい」などと述べた。

---

## 臨黄

### 被災者の心のはげみに

●**妙心寺派** 臨黄合議所主催による「阪神淡路大震災合同法要」が十五日、神戸市中央区の神戸仏教会館（南禅寺派広厳寺）で執り行なわれた。臨黄各派合同での法要は戦後初めてのことで、各派を代表する五十余人の尊宿が荷担した。合議所理事長として導師を勤めた小倉宗徳宗務総長は「各派そろって参加いただいて、ありがたかった。遺族の方々にもお参りいただけたようだ。法要や講演が被災者の心のはげみになればいい」と語っていた

▽合同法要の場所となった神戸仏教会館は震災で建物が大きな被害を受けて、昨年夏に二階建てのプレハブで復興された。小倉宗務総長によると、震災直後は「建物のなかで四十体もの遺体が収容されており、棺もなかった」とのこと。今回の合同法要を契機に、復興に向けて各派一体となって支援活動を展開していくことが期待される

---

## 真言

### 理性院でも慰霊の勤行

●**高野山** 兵庫県南部地震の一周忌に当たる十七日、全日本仏教青年会や全真言宗青年連盟など超宗派の青年僧侶が集まり、全国仏教徒慰霊行脚神戸結集を行なった。神戸市内の七カ所に分かれての慰霊行脚で、東灘コースは午前六時に浄土宗西福寺を出発し、光明真言などを唱えながら被災の大きかった場所を中心に行脚し、午後九時過ぎに阪神石屋川駅の北にある理性院（西蔵全祐住職）に着いて終了した

▽同寺は昨年の震災で落慶したばかりの本堂など諸堂が全壊し、類焼により全焼した。現在はプレハブの本堂と庫裡での檀務と生活。一周忌の当日、行脚の一行は同寺で唯一焼け残った観音像に慰霊の勤行を捧げた＝写真【写真は省略】。なお同寺の檀家合同の慰霊祭は十四日に執り行なったという。また境内には材木が置かれていたが、同寺の寺族の話によるとこれは新築のため解体したある寺の古材を仮本堂を建てるため分けてもらったものという。

---

### 地震犠牲者の一周忌営む

●**豊山派** 総本山長谷寺では十七日午後一時から観音堂で、兵庫県南部地震の犠牲者の一周忌法要を営んだ。法要は、山内職員が総出仕して執り行なわれた

▽総本山長谷寺では昨年暮れに雪が降って正月は寒かったが、その後は平年並みの寒さに戻っている。吉田俊誉化主は総本山の新年行事をすべてつとめて、八日から十四日まで京都・東寺の御修法に出仕した。宗務当局は中日の十一に吉田化主を“お見舞い”した。集議の牛田秀一元宗会議長、菩提院結衆川田聖成前宗会議員らは十二日に吉田化主を“お見舞い”した。

---